

航空機材料 受託試験 拡大

神戸工業試験場 P&Wから認定



【神戸】神戸工業試験場（兵庫県播磨町、鶴井昌徹社長、079・435・5010）

は、航空機向け金属材料の受託試験事業を拡大する。このほど米プラット・アンド・ホイットニー（P&W）が

ら試験所認定を取得した。2021年3月までは1億円以上を投じて、数値制御（NC）旋盤などを増設して試験片の加工能力を上げ、航空機材料の試験を拡充する。今後3年間で同事業における売上高を現状比50%増の20億円まで伸ばす。P&Wからの認定項

目は、引っ張り試験やストレスラプチャー試験といった強度に関する試験と、ロウ付けや溶接部分の金属組織を観察する試験など計7種類。P&Wによる試験所認定は国内で2番目という。神戸工業試験場は金属の材料試験や化学試験など、専門性の高い

多様な試験をワンストップで受託できる強みを生かし、認定項目の拡大を狙う。

同社は特殊工程管理の国際認証「Nadcap（ナドキャップ）」を取得している。94年の米GEアビエーションに次ぎ、15年には英ロールス・ロイス、さらに今回P&Wの試験所認定を得たことで世界の主要エンジンメーカー向け試験を提供する体制が整った。今後、国内における

各メーカーの製品・部品に使用される材料評価ニーズの取り込みを加速する。

P&Wのエンジンでは、欧エアバスの「A320neo」に搭載する

「PW1100G-JM」の増産が見込まれる。同エンジンの開発にはIHIや川崎重工業など重工大手が参画しており、多くの工程を手がけている。